

武蔵野市男女共同参画週間事業

武蔵野市男女共同参画フォーラム 2025

むさしのからジェンダー平等を



開催日: 令和7年6月9日～6月29日

会場: 武蔵野芸能劇場・武蔵野プレイス・武蔵野市役所・武蔵野市民会館

主催: 武蔵野市 (協力: 武蔵野市立男女平等推進センター企画運営委員会)

目 次

【はじめに】	1
【事業報告】	2
■企画 A 「古典落語を描きなおす～林家つる子の挑戦～ 林家 つる子さん	2
■企画 B 「自分らしく生きる」を考える～公正なジェンダー平等社会とは～ 前川 直哉さん	8
■企画 C 講演会&トーク 10代20代の女の子の生きづらさとその寄り添い方 (企画・運営 作ろう！みんなのジモト Wa-shoi パートナーシップ)	11
■企画 D 講演会&参加者トーク みんなの更年期 じぶんのこと、大切なひとのこと (企画・運営 フェミきち)	14
■企画 E 女性史 100年を描いたコメディ演劇 『MIMOZA WAYS 1910-2020』の上映会 (企画・運営 むさしの男女平等推進市民協議会)	16
■男女共同参画フォーラムパネル展	18
■各事業チラシ	22
■活動の記録	28
■資料	
企画募集チラシ	30
■企画運営委員と参加団体	32

はじめに

武蔵野市男女共同参画フォーラムは、男女平等の意識啓発を目的として、男女共同参画週間（毎年6月23日～29日）に合わせて実施する男女共同参画週間事業です。武蔵野市立男女平等推進センター企画運営委員会との協働により企画・運営を行っています。

今年度は「むさしのからジェンダー平等を」をテーマとして、令和7年6月9日～29日の期間で実施しました。

落語家の林家つる子さんによる、「古典落語を描きなოსす～林家つる子の挑戦」と題する講演のほか、福島大学教育推進機構准教授の前川直哉さんには「「自分らしく生きる」を考える」をテーマにお話しいただきました。

そのほかにも、団体公募企画として、「作ろう！みんなのジモト Wa-shoi パートナースhip」の企画運営による「講演会&トーク 10代20代の女の子の生きづらさとその寄り添い方」や、「フェミきち」の企画運営による「講演会&参加者トーク みんなの更年期 じぶんのこと、大切なひとのこと」や、「むさしの男女平等推進市民協議会」の企画運営による「女性史100年を描いたコメディ演劇『MIMOZA WAYS 1910-2020』の上映会」など、それぞれの団体が特色ある企画を実施しました。

期間中は延べ190名の方が講座等に参加したほか、男女平等推進登録団体によるパネル展も行い、広く男女平等の意識啓発をすることができたのではないかと思います。

「武蔵野市第五次男女平等推進計画」では、計画の目指す将来像として、「すべての人が、互いに人権を尊重し、性別等にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮して、生涯にわたり、いきいきと暮らせるまち」を掲げています。この将来像の実現に向けて今後も男女共同参画フォーラムをはじめ、さまざまな取り組みを行ってまいります。

最後になりますが、今回の男女共同参画フォーラムを実施するにあたり、多大なご協力をいただいた団体の皆様、市民の皆様ならびに関係者の皆様に心より感謝いたします。

武蔵野市 男女平等推進担当課長
向田 恒彦

【企画 A】

「古典落語を描きなおす～林家つる子の挑戦～」

講師 林家つる子（落語家、ぐんま特使、日本舞踊坂東流名取「坂東蝶子」）

日時：令和7年6月29日（日）午後2時から4時

14:05 市長あいさつ

14:10 武蔵野市立男女平等推進センター企画運営委員会
委員長あいさつ

15:13 林家つる子さん講演
休憩

15:08 林家つる子さん落語（紺屋高尾）

会場：武蔵野芸能劇場

参加人数：89名

託児利用：なし



【講演内容】

落語家になった経緯

私の生まれ育ちは群馬県高崎市。高校を卒業するまで、落語の事は全く知りませんでした。

子供の頃は、明るくて太陽みたいな母が大好きで、外に出るよりも母の後ろにくっついてるのが楽しいというような、とても内気な子どもでした。

そして、初めて大勢の皆さんの前で表現する機会をいただいたのが、小学5年生のとき。今思い返しても、人生の中で一番の恩師と言える担任の先生が演劇のご経験があって、まだ引込み思案だけど何かやってみたいといった私の内に秘めた心根の部分を察して「演劇クラブを作るから、入ってみないか」と誘ってくださった。それがきっかけで演劇クラブに入って、表現して、それを観た方がいろんな感想を言ってくださることが新しく嬉しい経験になりました。

高校生になり再び演劇をしたいと部活見学に行きます。先輩方の演技のレベルが高く躊躇していましたが、仲良くなった友人が先に演劇部に入り「大丈夫、やってみなよ」と、そして母が「友達もそういつてくれているし、入りなよ」と背中を押してくれ、少し遅れて5月に緊張

しながらの入部でしたが、だんだんと活動にも馴染んでいきました。

演劇部の夏のコンクールで初めて挑戦した役は、主人公ではなく笑いをとってずっと帰っていくコメディータッチな役でした。先輩方からも難しい役だと最初は心配されましたが、自分なりに研究して、舞台上上がって皆さんが笑ってくださるのが嬉しくてやりがいを感じました。皆様を笑顔にできる、何か表現ができる人になりたいと、その時確信しました。

舞台が終わって母は「面白かったよー」と、そして普段無口な父が「殻を破った気がするな」と言ってくれました。良い印象だったと感じて嬉しく思い、これから笑顔を出せるような表現者になりたいと、気持ちが固まっていきました。

そして、進学した大学で先輩に勧誘されてしまったのが「落語研究会」、いわゆる落研です。「堅苦しく感じるかもしれないけど、コントとか漫才をしている」と言われ、お笑いサークルのような活動なのかと思い活動を見学しましたが、ほぼ落語に集中して活動している落研でした。ただ、その時の先輩方の落語が面白かった。これが落語との出会いでした。だから私の場合、初めて見た落語は師匠方のもではなく、10代20代の先輩方が着物を着て高座で古典落語をやられていて、聞いている私達も同じような年代でした。

古典落語は、弱い立場や辛い状況にある方が主人公で、その方がどんでん返しを起こしたり、その状況を笑い飛ばしたり、下剋上を起こしたりとかいう噺がとても多い。

きっと、昔はもっと理不尽なことも多くあったでしょう。けれども落語を聞いて笑い飛ばしてストレス発散していたと思うと、落語がそっと心に寄り添ってくれるような気がするし、演劇の観点からも、1人で高座に上がり、登場人物を何役も演じ分けて、美術もなくともあるように見せて。「究極のエンターテインメントかもしれない」と、それからどんどん落語にのめり込んでいきました。

とはいえ、落語研究会の先輩方は男性しかおらず入部を躊躇していましたが、ちょうどもう1人同じ学年で入ろうとしている女性の存在と、母が「おちけーん、面白そうじゃん」と言ってくれたというのが大きかったです。背中を押されて飛び込んで、そこからどんどん落語の魅力にのめり込んでいきました。

自分はまだまだ突き詰めていきたいという思いが、大学4年間で育ってきました。

落語家になる決意

大学3年生になり就活の時期、落語家という未知の世界への思いがありましたが、すぐには決断できませんでした。弟子入りをするために師匠を突撃訪問したというのを聞きます。認めてもらえなかったらどうなるのか、認めてもらえたらそこから修行が始まる・・・落語の世界は男性の師匠方がほとんどで、どんなに厳しいか想像もつかない世界です。

それで、1回企業に就活をしました。表現する上で役に立つかもしれないという思いもありましたが、リーマンショックの影響で周囲が苦戦する中、そんな気持ちで受けている私は1社も受からなくて。進路について迷っていた頃、ちょうど落語研究会の卒業講演の時期で、「全集中していい高座を見せたい」という思いが強いということに気づきました。自分は落語を全力でやりたいと気づき、「落語家になりたい」という決意を固めました。

父は「一度就職して、思いが断ち切れなかったらまた挑戦するという手もあるよ」と。一方母は「やりたい事が見つからない子が多い中で、やりたいことが見つかったら早い方がいい」と力強く言ってくれました。それを受けて、父もだんだんと応援をしてくれるようになりました。

男性中心の落語の道に飛び込んで

両親の後押しを受けて落語家になる決意をし、どなたに弟子入りしようかと、アルバイトしながら寄席に通う日々を半年ほど送っていました。そこで出会ったのが私の師匠、林家正蔵。師匠が、女性を育てることにとっても前向きになられていた時期でもあり、ご縁をつないでいただいて、入門も許して頂けた。

さて今、東西合わせて落語家が千人強いるそうです。その中で女性の落語家って、上方も江戸も含めて何人ぐらいいると思いますか？

4択クイズで考えてみてください。

- ① 7人 ② 70人 ③140人 ④700人

正解は、②70人

もう閉ざされた道ではありません。ですが、歴史としては、まだまだ始まったばかりです。

落語の魅力は、時代は違っても今を生きる私たちも共感できる感情があることだと思います。ですが、男の方が作ってきた伝統芸能なので、ほとんどが男性の登場人物の噺です。「八つつあん 熊さん」「横丁のご隠居さん」。吉原遊郭の噺も出てきますが、やはり男の方が遊郭に行って騙されて仕返しをしようとか、逆にお金を作るために娘を売ろうといった噺がほとんど。ご夫婦の噺でも、亭主が主人公というのがほとんどなので、女性が主人公だとしても、作者は男性の師匠で、その男性から見た女性像といえるかもしれません。

私は、その古典落語の形が大好きでこの世界に入りました。自分は女性ですが、古典落語をそのままの形で伝えていけるようになるのが一番だと思っています。

女性が噺家になるには男性の何倍も努力しないとイケないという覚悟で入門しましたが、壁に当たることも多くあり、そんな時に私の師匠が「つる、いいか。古典落語をそのままの形で、男の噺家と変わらないようにしていく努力も大事だ、しなきゃいけない。だけど、俺は女性の噺家にしかできない噺もあると思う。だから、何かやりたいと思ったことはどんどん挑戦して行って欲しい」という言葉をくださいました。そのまま型通りにしていくのが正解だと思っていたので、「新しい形を作っていく努力をしてもいいのだ」と驚きました。その言葉で、頭がやわらかくなったのを覚えています。

私の師匠のその言葉があって、前座のときに舞台袖で色々な師匠方の高座を聞かせていただいた噺の中で特に気になったのが、夫婦の噺、「芝浜」「子別れ」或いは花魁が出てくる「紺屋高尾」。そのうちに「もしかするとこんな思いを持っていたかもしれない」という裏側の物語が頭の中に浮かんできてきました。「おかみさんを主人公にして、或いは遊女を主人公にして噺を作ってみたら、その部分が描けるかもしれない。師匠が言っていた女性の噺家にしかできない

挑戦に繋がるかもしれない」そんな思いから、同じ古典落語の噺の裏側を描いてみるという挑戦を、今もなお続けています。

これは、正直賛否両論あります。「そんなことをわざわざしなくていい」「古典落語はそのままの形で伝わってきており、むしろ古典落語を侮辱しているように感じる」というご意見をいただいたこともあります。ですが、お客様の中に「初めて『芝浜』って噺に合点が行きました」「花魁の気持ちこういう思いがあったのかもしれないと感情移入できました」と言ってくださったその声がすごく嬉しかった。

ある女性が、男性社会に合わせる努力が辛くなっていた時に私の挑戦を見て、「新しい道を切り開く努力をしてもいいと思えて、心が軽くなった」と声をかけてくださいました。その時に「本当に、挑戦してよかった」と思い、今でも励みになっています。万人の方に響くことがなくても、たった1人でもその方の背中を押すことができた。誰かの心の救いになりたいという思いから、この挑戦をこれからも続けていきたいと思っています。

挑戦を続けながら、自分も誰かの背中を押せる人になりたい

その時代を生きた女性たちも、今を生きる私たちと同じような感情をきっと抱いていたと思うので、確実に抽出するのは難しいかもしれませんが、古典落語の噺を大切にしつつ、昔の事実から少しずつ抽出して、今でも共通する女性の気持ち・感情について古典落語を通して伝えていけたらと思っています。

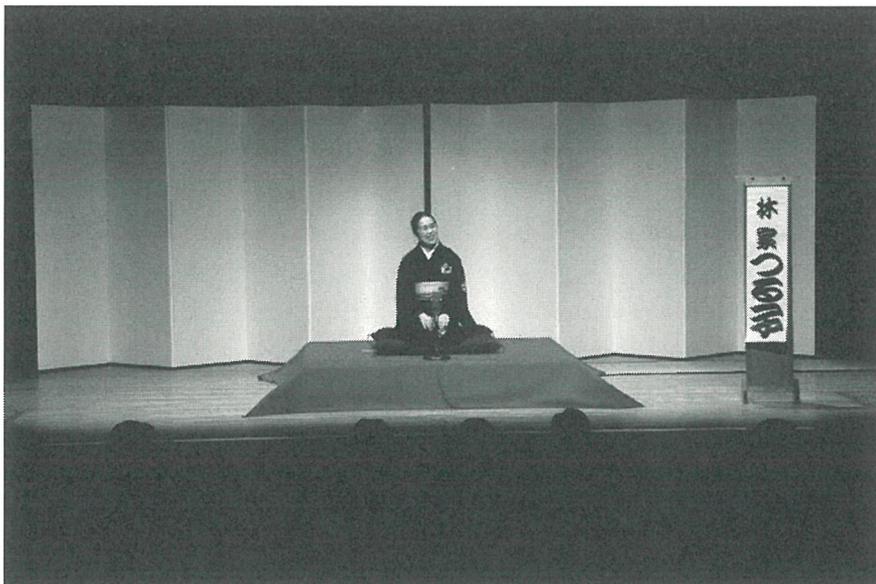
古典落語をそのままの形でもやりたいですし、挑戦も続けていきたい、或いは現在を舞台にした新作落語にも挑戦したい。挑戦する姿を見せ続けられる人でありたいと思っています。

いろいろ挑戦するといろんなことを言われたりいたしますが、やはり、飛び込んでみないと、新しい景色が見えません。だから、私は母と師匠にとっても感謝しています。

特に背中を押し続けてくれた母の言葉がなければ、今こうして噺家の道に飛び込めていたかどうかわかりません。

背中を押す一言が、新しい未来を切り開く1歩に繋がるかもしれない。私も、挑戦したいと思う方の背中を押せる人でありたいと思っています。ありがとうございました。

【落語 演目：紺屋高尾】



【参加者の感想】

- 女性の落語を初めて聞きました。これを機会に女性の講談も聞いてみたいと思いました。(70代)
- 講演はよかったです。ただ、男性中心社会の落語界で、女性の登場人物の視点を入れながら古典落語を演じるという挑戦をするうえでの大変さや理不尽に感じたことなども具体的にお聞きできたらもっとよかったです。『紺屋高尾』は、高尾太夫の心のうちを入れ込んだセリフは非常に新鮮でした。(60代)
- 落語は元々好きでしたが、以前は女性の噺家さんに違和感がありました。つる子さんは、とてもお上手で楽しめました。新しいことにチャレンジしてみたくなりました。(50代)
- 企画運営委員会の委員長が若い女性であることに、大きな希望とこの取り組みに対する武蔵野市の本気度を感じ、挨拶の内容には、非常に心が動きました。今回のフォーラムの各企画はどれも興味深く、担当者が男女平等に対してさまざまな視点を持っていることにも期待が持てます。(50代)
- 大変良い企画だと思います。私のように関心の薄かった者にセンターの活動を知らしめる機会になったし、男女平等の面から古典芸能のあり方を考えさせられ、おもしろかったです。(60代)
- 男女平等はどちらかが一方的に改善しようとしても上手くいかないことは歴然であり、相互理解と相互協力がないと成り立たないと感じました。意識を変えることは簡単なことではないけれど、まずは「男性らしさ」、「女性らしさ」などの性差にこだわのではなく、「人として」という視点で物事を考えるようにしたいです。(50代)
- いろいろと気づかされることがありました。挑戦することの大切さ、それを実行してきたつる子さんの生き方に共感しました。(60代)
- 完全に男性社会の中にとびこんで、女性の視点を入れて切り開いてきた努力、覚悟に感銘を受けました。私は女性相談の仕事をしています。脇役になりがちな女性が主役になってもらえるような支援をしていきたいと思いました。(60代)
- 前向きに挑戦する姿勢が明るくて好感を持ちました。落語、とてもよかったです！ジェンダー平等に関するニュースや自分自身のふるまいや感じ方についてもっと考えようと思いました。(70代)
- 女性だからとか年だからとかで尻ごみしやすい生活を少しずつ変えていきたいと思いました。前向きになれました。(60代)
- いくつになっても興味をもっとことがあったら挑戦してみたい。昔ながらの紙芝居やさんみたいに講演とかで紙芝居やってみたい。(80代)
- 多様性の世の中をいかに楽しく暮らしていけるか・・・知識を高めていけたらと思う。(50代)
- テーマに沿った非常に内容のある講演でした。挑戦する人の背中を押せるようになりたいと思いました。(70代)

- 林家つる子さんの講演で、人柄や生い立ちが分かり面白かった。落語の世界は男性社会の典型のようですが、女性の落語家が新しい芸能世界を拓けることに期待します。(60代)
- 高齢になって、刺激のない生活をしているけれど、一日の中にも新しい事を嬉しいこと、感動することを見つけられるように、自分の回りをみつめなおそうと思いました。ありがとうございました！(70代)
- 男女共同参画を進めるために、男女比の割合はとても重要だと思う。女性としての意見もきちんと社会に伝える必要があると思った。(60代)
- 初めてこの企画のイベントに参加しました。予想よりも良かったのですが、テーマとはちよつとちがったかと思いました(50代)
- お母様の話が印象に残りました。背中を押せる一声が出せる自分になれるように努力します(60代)
- つる子さんのように、挑戦、挑戦と、おそれないで前に進みたい(50代)

【企画B】

「自分らしく生きる」を考える～公正なジェンダー平等社会とは～

講師 前川直哉 （福島大学教育推進機構准教授）

日時：令和7年6月22日（日）午後2時から4時

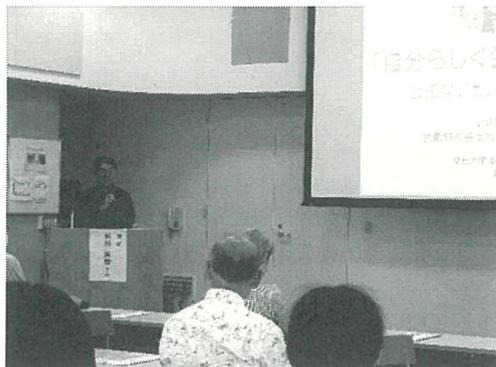
14:05 前川直哉さん講演

15:35 質疑応答

会場：武蔵野プレイス 4F フォーラム

参加人数：30名

託児利用：なし



【内容】

▶ 1. 近代的な性別役割分業観

2021年、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の会長が日本オリンピック委員会（JOC）臨時評議員会で女性軽視発言→国内外から批判が高まり、辞意表明。

この背景にあるもの

■日本 石破内閣

閣僚19人中女性は2人（首相官邸 HP より）

■フィンランド マリン内閣

閣僚19人中女性は12人（フィンランド、ニューズウィーク HP より）

-----日本の特殊性とは？

ホモソーシャル（Homo-Social）

（男性）ホモソーシャル＝男性で社会を独占する構造

ミソジニー（女性蔑視）とホモフォビア（同性愛嫌悪）を特徴とする。

① 近代的な性別役割分業観

「男は外で仕事、女は内で家事・育児」に基づき、社会（公的世界）を男性で独占。

② 女性は恋愛・結婚・性の対象としてのみ扱われ、家庭に追いやられる。→
ミソジニー（女性蔑視）

近代的な性別役割分業観

「男は外で仕事、女は家で家事・育児」は日本の伝統か？

→No！ 農業、自営業・・・女性も男性も働く。手が空いている人が家事・育児。
公私が分離せず



戦後日本の大転換「農業から勤め人（サラリーマン）へ」
公的空間と私的空間（親密圏）の分離

「社員・主婦システム」=正社員の夫+主婦の妻

▶ 2. ホモソーシャルの国 日本

「ジェンダーギャップ指数2024」全146か国中、日本は118位！！

○男女別の平均給与額

○母親（子が2001年生）のライフコース／父親のライフコース

○家事をしない日本の男性

○ケア労働とは

- ・家事・育児・介護などは「ケア労働」と呼ばれ家庭内の担い手の多くは女性で、ほとんどが無払い労働。家庭外でもケア労働は女性に偏りがち。

○男性も幸せにはならない

- ・男女別の年間自殺者数の推移

○どうすればよいのか

- ・差別を解消する→公正なより良い社会をつくるということ。
- ・女性に下駄を履かせるのではなく、男性に下駄を脱いでもらう。

▶ 3. 「オジサン社会」をどう変えるべきか

○見えづらい「特権」

「特権」=特別な人のみが有する権利ではない

特権とは「ある社会集団に属するというだけで、労なくして得ることのできる優位性」

○変わらないおじさん社会

→結果、ジェンダー平等に「総論賛成、各論反対」

○変わるべきは男性

→自身の「特権」を直視し、どうすればフェアな社会をつくれるか考え行動する。

○変わるべきは男性社会

→「女性活躍」が求めるのは、「女性の男性化」。

むしろ必要なのは「男性社会の女性化」では？

○ケア労働の価値を取り戻す

○「虎に翼」から教わったこと

先生には感謝しますが、許さない。納得できない花束は渡さない！

「世の中そういうもの」に流されない。それでいいじゃないですか！

【参加者の感想】

- 講師の方の話もわかりやすかったですし、その後の質疑応答も、いろんな立場のみなさんの声や意見を聞くことができ、とても有意義な時間でした。(60代)
- 日本の性別役割分業の時代は短いことに改めて驚きました。今まで共同体の中で支え合っ
て暮らしていた社会が、徐々にこうも変わったのかと驚きました。一方で、質疑応答の時
間も興味深かったです。質疑者の人のジェンダーに対する捉え方、その捉え方に対して先
生の学びや考え方を知り、思考を深められる良い場と成りました。20年で社会はより良
くなっており、たとえ揺り戻しがあったとしても、人々の意識に入ったものは密かにでも紡
がれて行くということが印象的でした。自分自身もわがままになって世の中を少しでも生
きやすく変えていきたいです。(20代)
- 暗澹たる気持ちになることもありますが、確実に良くなっていると言っていただけで元
気が出ました。男性の立場からジェンダーについて話していただくこともとても力になると
感じました。質疑の際にアライの話がありました。シス女性であり、日本国籍を持って日
本に暮らしていることで、自身の特権について考えることはあるのですが、一緒に戦うこ
とはできていないので耳が痛かったです。私は、嫌だな、怖いな、疲れるなど思ったら戦
わないという選択肢があるので、これが特権か……と思いました。特権がある立場で見た
くない方を見るのは本当に大変なことだなと思います。(20代)
- ひとりでも多くの男性に、ジェンダーについて学び、自分のもつ特権性に気付いて、フェ
アなジェンダー平等社会にしていこうと、行動をしてほしいと思いました(70代)
- ジェンダー平等を目指しているつもりでも、沁みついているなあという思いにいくつか気
づきました。(70代)
- 未来に対する不透明感、本当に大きいと思います。「未来は変えていける」に力をいただき
ました。(70代)
- ジェンダーの講演への関心は、やはり女性が強く男性は関心がうすいのだなと、本日の出
席者の割合をみてつくづく思いました。(70代)

【企画C】

10代20代の女の子の生きづらさとその寄り添い方

企画・運営 作ろう！みんなのジモト Wa-shoi パートナーシップ

日時 : 令和7年6月14日(土) 午前10時30分から12時30分

10:30 開場

10:30 オープニング

10:40 講演 福田愛さん(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

11:25 休憩10分 ※質問用紙回収

11:35 トーク 福田さん×市川(作ろう！みんなのジモト Wa-shoi パートナーシップ)
質疑応答

12:25 クロージング ※アンケート記入

会場 : 武蔵野プレイス4Fフォーラム

登壇者 : 福田愛さん(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

参加人数 : 29名

【内容】

若者の自殺率や自己肯定感が世界でもトップレベルに低い日本の10代20代の女の子が抱える悩みや問題は、当事者からの申告が少なく表面に出づらい状況があります。

特にコロナ以降は家庭にも余裕がなくなるなか、家庭内の不和、親の離婚、虐待(暴力、性被害、言葉による虐待、ネグレクトなど)が子どもたちを追い詰め、学校や職場、家庭に居場所のない女の子たちがメンタルヘルスの不調や孤独や孤立を深めるケースが増え続けています。武蔵野市でも令和6年10月に子どもの権利擁護センターが開所され、中高生の居場所として武蔵野プレイスなどもあります。悩める女の子たちの確かな支援につなげていくためには、情報発信の仕方や様々な複数の居場所との連携、相談相手の存在など、もっと考えていく必要があるのではないのでしょうか。

今回、講師には世界80か所以上で子供たちの権利を守る活動やとりわけ女の子や女性の支援を続けてきた国際NGOプラン・インターナショナルの日本支部で、池袋で女の子のための居場所「わたカフェ」を運営している社会福祉士で精神保健福祉士の福田愛さんをお迎えし、女の子のつらさの原因と安心安全な居場所のありかたやその寄り添い方についてお話いただきました。その後、休憩時間に皆さんからの質問を集めて、第2部のトークで回答をいただきながら、参加者とともに考える時間を持ちました。個人的な深い話もあり考えさせられました。

広報活動をするなかでも、当事者の方々から本当にたくさんの声をいただいただけでなく、行政や居場所、プレイスの職員、市議会議員など支援に関わる方もお忙しい中、多く参加いただき、また当事者である親御さんや女の子、男性も関心を持ってご参加いただきました。

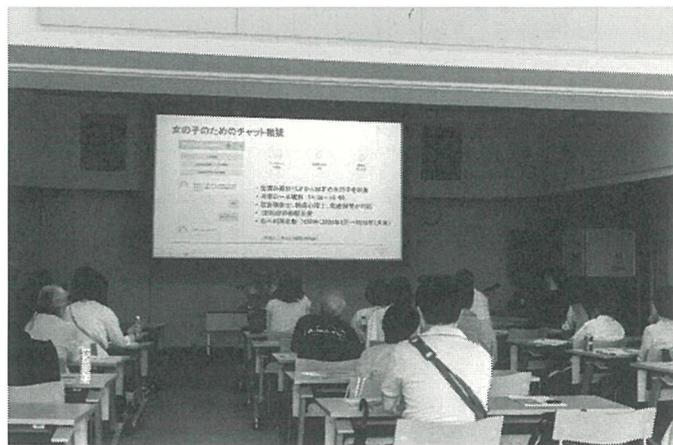
今回のイベントがひとつのきっかけとなって、女の子やそのご家族の支援がすすむことを切に願います。

【参加者の感想・ご意見】

- データでの背景説明と実践を通じての若年女性のリアルで、とても分かりやすい温かい講演をありがとうございました。参加者も老若男女と多様だったことに心強さを感じました。(40代女性)
- 今日のお話に出た話題は持ち帰って自分なりに考えたいと思います。(30代女性)
- 完璧を求めない！（やってあげるのは大人のエゴ）その子の人生はその子のもの（20代女性）
- まずは入り口支援となるように「評価しない、スタンスを持ち続けていきたい」と思います。また大人に甘えたい、多くの頼れる人、場所が欲しいというニーズがわかったので子どもたちのジレンマや今まで満たせなかったニーズをくんでいきたいです（20代女性）
- 思い込みは「重いゴミ」という言葉を忘れずに、様々な機関の人々とつながりながら、しんどい子ども、若者の今が少しでも良くなるように活動がしていきたいです。(40代女性)
- 15歳～24歳という支援が届きにくい世代に向けて様々な工夫や配慮で「わたカフェ」を運営されていることがわかりました。お話ありがとうございました。(30代女性)
- 福田先生が「家族と友人に相談できなかつたら誰に相談するのか。相談する人がいない」とおっしゃっていたがそれは若い女性に限らず人はみなそうだと思う。なぜ15歳～24歳女子に限定しているのか性の問題以外で何が限らせる理由になっているのか自分にはよくわからなかった(40代女性)
- とても小さい問題になぜ悩んでいるんだという想いが外に出そうになりました。もちろん本人にとっては大きい問題だから悩むという因果性は理解します。ここから聞きながら考えつつ思いを巡らせました。要因として考えたのは文化の継承がなかったことへの警告です。しかし古い文化が現代の若い人にとって重くて合わないということも考えたりします。世代間で価値感や情動が相当異なっているとも考えました。では小さい問題で生じている心の変化は想像以上に大きいのかもかもしれません。共生していく距離感が大切だと考えなおしました。(40代男性)
- 社会的距離は同胞の間でも大切だという気持ちになってきました。宗教感、国家感が生きる方向を決定し、周囲の人が若い人を育て自信を育てている部分がある気もしました。小さなコミュニティの中の目標だと弱々しく、生き残っていくのは難しい気がします。しかし重いアドバイスみたいになる気もします。弱っていく新しい世代に何もできないとあきらめていく人の割合を少しずつ拡大させていく方向しか見えないのが絶望的です。(40代男性)
- ありがとうございました。私もヤングケアラーで親とはうまくいかないまま結婚により、すべてを受け入れ、怒り方（理不尽なこと）を知らないまま結婚し、子を産み育て、代々離婚をしてきた家庭に育った主人の闇に気づききれず、気が付くと子どもたちを同じ闇の下で子育てせざるを得なくなっていました。最悪の事態になってはじめて「あなたがケアが必要だ」と言われ、はじめて行政につながりました。子は常に様々な団体に守られ、それが一番の望みですが親との間で親も同時に話を聞いてくれたら、もっと早くに子どもを守れたのでは、と考えています。(40代女性)
- 子どもが わたカフェを知っており、利用対象なのだろうなと思います。でも親としてみると10代～20代の子は本当に親から関心や愛情がないわけではなく思春期特有の感性でオーバードーズや家出に至っている子もいます。そうした子とうまくいくにはどうしたらよいかと悩んでいる親

も多く、親こそ親であり妻であるためすべてから逃げられず、相談も行けてない方も多くいます。そこをケアすることが子にとっても根本の解決とならないかと思う部分もあり、その連携があるとよいなと思いました。(40代女性)

- 武蔵野市は乳幼児期が終わると途端に居場所が無くなる。中高生は特に。私立や国立中学生も多いから、結局は友達や1人である場所は繁華街のカフェなどでお金を使う必要がある。図書室も2時間制だ。コミセンは駅から遠くなると他市の友達とは行かなくなる。安心して長居出来るところがない。やはり遠くで大人が見守る場所も必要と思っていた。それを実現していたのが今回のわたカフェ。
- トー横キッズなんていてはいけないと思う。昭和に、今なら虐待になる教育や育て方をされて、子どもを守れない親への対策も必要だ。負の連鎖は続く。親の発達障害や軽度知的障害も関係ありそう。とても考えさせられた。(50代女性)
- 私自身、若年女性の困難を意識したことがなかったため(それは自分自身の特権性だと自覚します)講座の内容がとても勉強になりました。(30代女性)
- 武蔵野市に若年層の方の居場所をつくる動きがある際には応援したいと思いました。(30代女性)
- 居場所は「あるだけで良い」ようにも感じるのですが(解決するとかでなく)、それがなかなか難しいように思います。無駄がある、無駄が許される社会でありたいと思います。(70代以上男性)
- 講座を受けてさらに学びたいし、考えたいと思った(50代女性)



【企画D】

みんなの更年期 じぶんのこと 大切なひとのこと

企画・運営 フェミきち

日時 : 令和7年6月15日(日) 午後2時から4時

14:15 トークセッション

15:00 グループディスカッション

15:30 質疑応答

15:45 クロージング

15:50 アンケート回収・終了挨拶

会場 : 武蔵野プレイス4F フォーラム

参加人数 : 11名

託児人数 : なし

【内容】

更年期は誰にとっても無関係ではなく、本人だけでなく周囲の大切な人の心身やキャリアにも影響を与える可能性があります。にもかかわらず、話題にしづらい現状があります。今回のイベントでは、世代や性別を問わず更年期を自分ごととして考えられるよう、二人のゲストによるトークセッションに加えて、参加者同士での対話や追加の質問を通じて理解を深め合うことを目指しました。

千種ゆり子さんからは、20代で更年期症状を経験し、話しにくさや孤独感を抱えながらも、医師やパートナーとの対話を重ねてきた経験や、ご自身の当時の症状や治療について詳細にご共有いただきました。高橋尚之さんは、男性更年期の取材を通して、企業内での啓発事例や、生活改善によって症状を乗り越えた事例を紹介いただきました。参加者からは、病院選びや予防策、また家族や友人が更年期の可能性がある場合のコミュニケーションについて複数の質問が寄せられ、相手に寄り添う姿勢の大切さについてゲストと参加者一緒に考えを深める場となりました。

【参加者の感想】

- 更年期や生理に関する講座のジェンダーバランスが1:1になるような世の中にしていきたい。男性の更年期に対する理解で当事者だけでなく、家族、同僚等も含め広げていくことが課題だなと感じました。(30代)
- とても分かりやすく誠実に質問に対してお話されていて、ひきこまれました。貴重なお話をありがとうございました。夫にストレス発散のための仕事以外のコミュニティー、仲間を持ってもらう促しをしたいと思いました。(40代)
- 症状だけでなく女らしさ、男らしさの思い込みにも話が広がっていったのが予想外に興味深か

った。たくさんの新情報があった。(60代)

- 男性更年期について新たに知ることがあったので良かったです。更年期在状を軽くする方法をもっと知りたかったです。病院以外のエクササイズや食事などが知りたかったです。(50代)
- 今後・更年期をむかえる世代の方にとって、意義のある内容だったと思います。話題にしばらく内容の講座を開いて頂きありがとうございます。人とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。また参加させていただきます。(50代)
- 男女両方から更年期について深く知れて、グループワークや質問タイムで、一般の人が更年期についてどう考えているのか知れたのが興味深かった(30代)



【企画E】

女性史 100 年を描いたコメディ演劇『MIMOZA WAYS 1910-2020』の上映会 企画・運営 むさしの男女平等推進市民協議会

日時 : 令和 7 年 6 月 28 日 (土) 午後 2 時から 4 時 30 分
14:00 挨拶と本日のタイムスケジュールの紹介
14:05 上映会 (1 時間 38 分)
15:45 休憩 (10 分)
15:55 講演 演劇製作者 リボアル堀井なみのさん
「この演劇に込めた思い」
16:05 参加者同士の意見交換
16:25 まとめとアンケート記入
16:30 終了

会場 : 武蔵野プレイス 4F フォーラム

参加人数 : 31 名

託児人数 : なし

【内容】

日本は憲法によって男女平等が保証されている。それなのにジェンダーを理由にした差別が繰り返されているのはなぜだろう。モヤモヤを抱えた現代の女性たちが、1910 年代、1970 年代にさかのぼり、女性の権利を知る旅に出る、そんなストーリーで、平塚らいてうの時代から 100 年あまりの、女性が直面する課題の克服への道を描いた、演劇作品の上映会です。

演劇という表現を通じて、青鞥から女性差別撤廃条約選択議定書まで、日本の女性たちのジェンダー平等へ向けての歴史を紐解いています。時代が変わっても女性の直面する課題は驚くほど似ている、そんな中でも少しずつ、道が開かれてきたことを実感できるように、映像、音楽、ダンスを駆使して、登場人物たちが 21 世紀までの道をたどるユーモアあふれる作品です。

上演映像鑑賞後、フリートークで意見交換を行なうことで、各々がこの演劇で感じたフェミニズムについて自ら声に出し相手に伝えて、さらにこれからの世代へ、ジェンダー平等社会の実現に向けて自分たちができることは何か考える、そのような場になることを期待して、今回の上映会、フリートークを行いました。

【参加者の感想】

- 日本のリブ運動と「ふつうの人(家族)」がいかにか分断していたかと感じた。特殊な人の特殊な運動(主張に共感していてもいつも怒っているし)だったが、今はとても自然な形で広がっていると思う。

- 少しわかりにくかった。
- わかりやすかった。
- 出演者の名前を知りたかった。
- 力強い演劇で笑えてよかった。
- とても楽しく拝見しました。セクシャリティに関する内容が多いところがフランス的だと思いました。
- 1910年からの流れを見て胸が熱くなりました。
- 女性問題について吉本新喜劇のようにコミカルで分かり易く理解できました。
- 1910-2020までの女性史を分かり易く描かれていたと思います。ただし、その原因までを描くべきではなかったか。
- 土井たか子委員長が率いる日本社会党が参議院選挙で多くの女性議員を誕生させ「山が動いた」という政治状況を生み出したことに触れてほしかった。学生時代のゼミで学んだ近現代の女性史に出てくる女性の名前がいろいろ出てきて懐かしかった。総じて興味深い内容だった。
(40代から70代)



【男女平等推進団体活動紹介 パネル展】

1 概要

出展 6団体

- ・ むさしの男女平等推進市民協議会
- ・ なないろのおと
- ・ パシイワ武蔵野グループ
- ・ フェアトレードむさしの
- ・ むさしのジェンダー問題を考える会
- ・ lag

① 武蔵野市役所ロビー

日時 令和7年6月9日（月）から6月13日（金）

② 市民会館1階 ギャラリー

日時 令和7年6月16日（月）から6月27日（金）

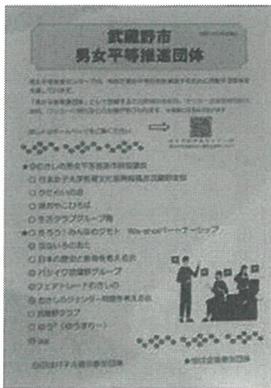
2 展示の様子



市役所 ロビー



市民会館ギャラリー



武蔵野市男女共同参画フォーラム2025イベント日程

6/14 (土) 10:30～	武蔵野フェイスフォーラム	講演会トーク 10代10代の女の子の生きづらさとその寄り添い方 講師：福田愛さん
6/15 (日) 14:00～	武蔵野フェイスフォーラム	講演会も参加トーク みんなの更年期 じぶんのこと、大切なひとのこと 講師：千種ゆりこさん、渡橋尚之さん
6/22 (日) 14:00～	武蔵野フェイスフォーラム	「自分らしく生きる」を尋ねる ～公民館ジェンダー平等社会とは～ 講師：堀川直哉さん
6/28 (土) 14:00～	武蔵野フェイスフォーラム	女性史100年を振り返る 『MIMOZA WAYS 1910-2020』上映会
6/29 (日) 14:00～	武蔵野フェイスフォーラム	古角節謡を聞きながら ～林葉つる子のお話～ 講師：林葉つる子さん

男女共同参画フォーラムの紹介



センターの紹介

むさしの男女平等推進市民協議会

わたしたちは、1996年に市内の女性団体の有志によって、市民自らが女性問題を考える集まりとして活動を開始し、市民目線で市への提案、講座の企画、交流事業、出版講座などを行ってきました。

・2016年に協議会の男女平等条例案を市に提出し、これをもとに市で検討がすすめられ、市の条例が策定、施行されました。

・2018年から毎年、協議会主催講座「女書の見点から読み解く新選氏物語」を開催しています。

・2024年「女性差別撤廃条約の実効性ある批准を求める意見書」提出に関する協議会の開催が、武蔵野市議会で採択されました。

・1995年には女性差別撤廃条約が日本でも批准され、ジェンダー平等実現への大きな力となりましたが、未だに女性差別は解消されていません。

・新選氏物語展覧会、男女の賃金・雇用格差・年金問題、女性に対するハラスメント被害、性差別の被害と権利に関する問題、性の多様性、差別を拒否する女性への支援など、これら多くの課題解決に向けて、市内だけでなくジェンダー平等に取り組んでいる仲間とつながり、実践的な取り組みを学び合い、その成果を市の男女平等施策に反映させていきます。

・これからも、女性差別撤廃条約の実効性が期待されるために、誰もが個人として暮らせる差別のない社会を実現できるように、皆様とともに活動していきます。

私のフェミニズムをこごとばにする

2024年度は「私のフェミニズムをこごとばにする」4回連続講座を開催しました。

1回年度のフォーラムの連続会（清水晶子さんの反応から今知フェミニズムに特化した講座を行った。日常の中に散らばっているフェミニズムをテーマとして取り上げ場所を作ることで、男女平等意識を共有することを目指す。

・4回の講座を通じて、安全な会場で安心して話せることができる機会がなかったという感想もあり、自分ごとでフェミニズムを語ってみたいという声の目的は果たされたと思います。

・男女平等意識をすすめる機会として、日常の中で話してしまいがちなこのようなテーマを取り上げて場所を作る必要感を改めて感じることができました。

1回 1月25日(土) 14時～15時30分
2回 2月8日(土) 14時～15時30分
3回 3月15日(土) 14時～15時30分

なないろのおと

すべての人にとって、まきやすい術とは？

その一歩は、「お互いを知ること」知識を共有し、人と人がつながりエンパワメントしあえる場所を武蔵野市につくります。

なないろのおとの由来

「なないろ」は多様性を表すにじの色です。「なないろのおと」には七色note、七色の音、のふたつの意味が込められています。この術と社会に基づきさまざまな人々と共に未来を考え、学びあい、心の距離(note)に書き留め、ハーモニーを響かせられたらという思いで行われました。

むさしの男女平等推進市民協議会

2023年の活動報告

2023年は、協議会が主催する「なないろのおと」の活動が中心となり、市内の女性団体と連携して、市民目線で市への提案、講座の企画、交流事業、出版講座などを行いました。

・2023年に協議会の男女平等条例案を市に提出し、これをもとに市で検討がすすめられ、市の条例が策定、施行されました。

・2024年から毎年、協議会主催講座「女書の見点から読み解く新選氏物語」を開催しています。

・2024年「女性差別撤廃条約の実効性ある批准を求める意見書」提出に関する協議会の開催が、武蔵野市議会で採択されました。

今後の予定をホームページ上で

去年はお休みしましたが、2024年は、みなさんと楽しく話し合えるような機会を考えています。どんなものになるか、楽しみにお待ちください。

なないろのおと

DDJAWA

パシイワ武蔵野グループの活動報告と今後の予定に関する情報です。

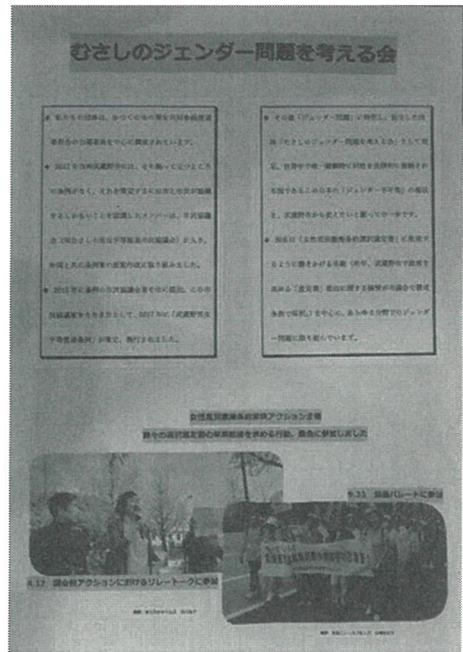
パシイワ武蔵野グループ

パシイワ武蔵野グループの活動報告と今後の予定に関する情報です。

パシイワ武蔵野グループ



フェアトレード
むさしの



むさしのジェンダー問題を考える会



lag

武蔵野市男女共同参画フォーラム 2025

むさしのからジェンダー平等を

企画

A

古典落語を描きなおす

～林家つる子の挑戦～



申込み

会場 武蔵野芸能劇場

6月29日(日)

定員 120名(申込順)

14:00～16:00(開場13:30)

保育定員 3名(満1歳以上学齢前まで
保育締切:6月15日(日))

申込開始 市内在住・在勤・在学…5月16日9時～
定員に余裕がある場合、上記以外の方の
申込みを受付けます。…5月23日9時～

男性中心の古典落語を大胆に描きなおし続けている林家つる子さんの
気づきと挑戦、その背中を押してくれた大切な人たちからもらった言葉。
当日はその挑戦についての講演と、実際の落語をお楽しみいただきます。

林家つる子さん

(落語家、ぐんま特使、日本舞踊坂東流名取「坂東蝶子」)

2010年9月九代林家正蔵に弟子入り、2024年3月落語界で女性初となる抜擢真打昇進を果たす。古典落語の滑稽から人情、新作落語にも取り組み、新しい挑戦にも意欲的で、古典落語「芝浜」や「子別れ」「紺屋高尾」の登場人物であるおかみさんや花魁を主人公にし、その視点から古典落語を描く挑戦は、NHK総合「目撃!にっぽん」等、各種メディアに取り上げられた。

企画

B

「自分らしく生きる」を考える

～公正なジェンダー平等社会とは～



申込み

6月22日(日)

14:00～16:00(開場13:30)

会場 武蔵野プレイス
4F フォーラム

定員 70名(申込順)

保育定員 3名(満1歳以上学齢前まで
保育締切:6月15日(日))

差別や格差に満ちた社会において、「自分らしく生きる」をどう考えるべきか。
「虎に翼」でジェンダー・セクシュアリティ考証を担当した前川直哉さんに、
「見えづらい特権」をキーワードにお話しいたします。

前川 直哉さん (福島大学教育推進機構准教授)

1977年兵庫県尼崎市生まれ。京都大学博士(人間・環境学)。

専門はジェンダー/セクシュアリティ研究。共編著に『基礎ゼミジェンダースタディーズ』(世界思想社、2025年4月刊行)、著書に『〈男性同性愛者〉の社会史』(作品社)、『地方』と性的マイノリティ』(共著、青弓社)など。2024年のNHK連続テレビ小説『虎に翼』においてジェンダー・セクシュアリティ考証を務める。

主催：武蔵野市 協力：武蔵野市立男女平等推進センター企画運営委員会

企画

C

講演会&トーク

企画運営：作ろう！みんなのジモト Wa-shoi パートナーシップ



申込み

10代 20代の女の子の生きづらさとその寄り添い方



6月14日(土) 10:30~12:30

会場 武蔵野プレイス 4F フォーラム 定員 50名 (申込順)

生きづらさや不安を抱え、孤独を感じる日本の10代20代の女の子たち。問題が見えにくい現状とその寄り添い方や日常からの支援や連携について、居場所「わたカフェ」を運営する講師とともに考えていきます。

福田 愛さん

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 国内支援事業グループ・リーダー
社会福祉士・精神保健福祉士

2020年に国際NGO プラン・インターナショナル国内支援事業グループに入局し、15-24才の女の子のための居場所「わたカフェ」とチャット相談事業に従事。

企画

D

講演会&参加者トーク

企画運営：フェミきち



申込み

みんなの更年期 じぶんのこと、大切なひとのこと



千種ゆりこさん
気象予報士、防災士



高橋尚之さん
朝日新聞社
デジタル企画報道部記者

6月15日(日) 14:00~16:00

会場 武蔵野プレイス 4F フォーラム

定員 50名 (申込順)

保育定員 3名 (満1歳以上学齢前まで) 保育締切：6月4日 (水)

自分自身や大切な人のために何が出来るの?誰もが経験しうる体の変化「更年期」について、当事者経験や取材経験を持つ講師のお二人と共に考え、参加者同士で気持ちを共有しませんか?

企画

E

女性史 100年を描いたコメディ演劇

企画運営：むさしの男女平等推進市民協議会



申込み

『MIMOZA WAYS 1910-2020』の上映会



©Chiaki Kano

6月28日(土) 会場 武蔵野プレイス 4F フォーラム

定員 50名 (申込順)

14:00~16:30 保育定員 3名 (満1歳以上学齢前まで) 保育締切：6月15日(日)

平塚らいてうの時代から100年、女性の直面する課題はどのように道が開かれてきたのか。ジェンダー、世代間の継承、夫婦別姓、DVなどの克服の軌跡を、映像、音楽、ダンスを駆使してたどる、ユーモアあふれる作品です。トークタイムもあります。

企画・制作・翻訳・監修責任 リポアル堀井なみの (国際女性の地位協会理事 日仏女性の人権架け橋・ミモザ実行委員会代表)

脚本・演出 トリニダード・ガルシア

申込開始 5月16日(金)

問合せ先

武蔵野市立男女平等推進センター

☎: 0422-37-3410 E-MAIL: danjo@city.musashino.lg.jp

申込方法

- 5月16日(金)から、申込みフォーム、電話(0422-37-3410)で受付します。(申込順)
- 保育は1歳以上未就学児対象。各企画の保育締切日までに、①住所(すべて記載)、②お子さんの氏名(ふりがな)③年齢(○歳△か月:講座当日)をお書きの上、お申込みください。定員を超えた場合は、抽選となります。(市民優先)



センター HP

男女平等推進登録団体活動紹介パネル展

●武蔵野市役所ロビー 6月9日~6月13日

●市民会館1F ギャラリー 6月16日~6月27日

女の子の心に
起きていること
気づけていますか

10代20代の女の子の生きづらさと その寄り添い方

～若年女性のための支援や居場所の意義を一緒に考えませんか～



武蔵野プレイス
4Fフォーラム
(JR武蔵境駅南口1分)

6/14 (土)
10:30~12:30
(会場10:00)



定員50名
(申込順)

[申込み・問い合わせ]

※5月16日(金)から申込みフォームまたは電話(申込順)にて※
武蔵野市立男女平等推進センターTEL 0422-37-3410



申込みフォーム

[主催] 武蔵野市

[企画運営] 作ろう!みんなのジモトWa-shoiパートナーシップ

[内容に関する問い合わせ] washoiwashoi55@gmail.com

SCHEDULE

- 10:00 開場
10:30 オープニング
10:35 講演：福田愛さん
11:15 休憩
11:25 トークセッション
モデレーター：市川順子
(作ろう！みんなのジモトWa-shoiパートナーシップ代表)
12:30 クロージング

自信のない
自分でも受け入れて
ほしい

否定しないでほしい

生理の前後で
イライラするのが
おさまらない

誰かと話す
機会が欲しい

死にたい
消えてしまいたい



精神的に
不安定で
居場所がない

母親を見ていると
幸せになれる気がしない

引きこもっている
将来に希望がもてない

性被害にあっても
いえな



講師：福田 愛 (ふくだめぐみ) さん

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
国内支援事業グループ・リーダー (社会福祉士・精神保健福祉士)

プラン・インターナショナルとは？



Until we are all equal

国際NGOプラン・インターナショナルは、誰もが平等で公正な世界を実現するために世界80カ国以上で活動する国際NGOです。子どもや若者、さまざまなステークホルダーとともに活動し、子どもや女の子たちが直面している不平等を生む原因を明らかにし、その解決に向けて取り組んでいます。子どもたちが生まれてから大人になるまで寄り添い、自らの力で困難や逆境を乗り越えることができるよう支援します。とりわけ女の子や女性への支援に力を入れており、日本の女の子にも安全安心な居場所を届けるために、「わたカフェ」を運営しています。



わたカフェHP

6
/15
SUN

14:00-
16:00

みんなの更年期 じぶんのこと 大切なひとのこと

武蔵野市主催

男女共同参画
フォーラム
2025



千種ゆり子さん

気象予報士・防災士
2014年にNHK青森でデビュー後、テレ朝スーパーJチャンネル（土日）、TBS THE TIME等に気象キャスターとして出演。2022年、20代の時に早発閉経と診断され、更年期症状に苦しんだ経験を持つことを公表した。



高橋尚之さん

朝日新聞社
デジタル企画報道部記者
1987年生まれ、現職にてミドル世代向けの記事を担当中。

更年期は、自分や大切な人の生活やキャリアに影響を与えるかもしれません。でも、まだ話す機会は多くありません。このイベントは、そんな不安を持つ20-30代の運営メンバーが企画・運営します。

ゲストのお二人と参加者のみなさんと、一緒に学び、話せる時間にできたら嬉しいです。ご参加お待ちしております！

企画運営: フェミきち
instagram:
@femikchi.official



イベント詳細

日程: 6月15日(日) 14:00-16:00

内容: ゲストトーク+参加者トーク・質疑応答

会場: 武蔵野プレイス4Fフォーラム

定員: 50名 (保育定員:3名 保育申込締切:6月4日)

申込方法: 5月16日から申込フォームまたは電話(申込順)



申込
フォーム



電話申込先: 武蔵野市立
男女平等推進センター
tel: 0422-37-3410

映画 女性史100年を描いたコメディ演劇

日仏協働／制作・初演2023

MIMOZA WAYS 1910 2020

ミモザウェイズ — わたしたちの道

脚本・演出 TRINIDAD

入場
無料

6月28日 土

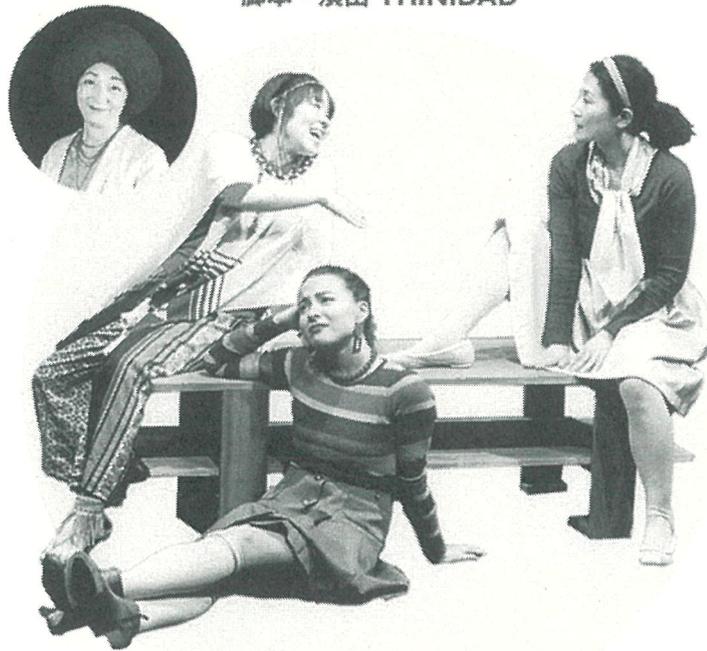
14:00~16:30

(開場13:30)

会場：武蔵野プレイス
4Fフォーラム

定員：50名 (申込順)

保育定員 3名
(満1歳以上学齢前まで)
保育締切 6月15日 (日)



©Chiaki Kano

脚本・演出 トリニダード・ガルシア
企画・製作・翻訳・監修責任 リポアル堀井なみの
国際女性の地位協会理事
日仏女性の人権架け橋ミモザ実行委員会代表
キャスト 柳田ありす 中谷和代 黒木陽子 カルドネル ルウ

ジ
エ
ン
ダ
ー
平
等
演
劇

「原始、女性は太陽であった」の言葉で知られる平塚らいてうの時代から100年、女性の直面する課題はどのように道が開かれてきたのか。ジェンダー、世代間の継承、夫婦別姓、DV、性と生殖に関する権利などの克服の軌跡を、映像、音楽、ダンスを駆使して、登場人物たちが21世紀までの道をたどるユーモアあふれる作品です。上演映像鑑賞後、フリートークで意見交換を行います。

申込方法 5月16日から申込みフォームまたは電話(申込順)

武蔵野市立男女平等推進センター ☎0422-37-3410

主催：武蔵野市 企画運営：むさしの男女平等推進市民協議会



申込み

【活動の記録】

■令和6年度第3回男女平等推進センター企画運営委員会

日時：令和6年8月30日(金) 午前10時から正午

出席：9名

＜検討事項（フォーラム関連のみ）＞

- ・フォーラム2025の講師候補・メインテーマについて意見出し

■令和6年度第4回男女平等推進センター企画運営委員会

日時：令和6年9月30日(月) 午前10時から正午

出席：7名

＜検討事項（フォーラム関連のみ）＞

- ・フォーラム2025のメインテーマを「むさしのからジェンダー平等を」に決定
- ・講師などについて意見出しし、絞り込み。

■令和6年度第5回男女平等推進センター企画運営委員会

日時：令和6年10月21日(月) 午前1時半から3時半

出席：9名

＜検討事項（フォーラム関連のみ）＞

- ・企画Aの講師は「林家つる子」さんに決定。
- ・企画Bの講師候補「前川直哉」さんに決定。
- ・講師講演テーマについて意見交換。

◇団体企画の募集を開始（市報11月15日号掲載）

募集期間 令和6年11月15日(金) から令和6年12月27日(金)

■令和6年度第6回男女平等推進センター企画運営委員会

日時：令和6年11月18日(月) 午後1時半から3時半

出席：9名

＜検討事項（フォーラム関連のみ）＞

- ・各企画のタイトルとリード文について自由に意見交換・アイデア出し
- ・企画Aのタイトルとリード文を決定

■令和6年度第7回男女平等推進センター企画運営委員会

日時：令和7年1月27日(月) 午前11時から12時30分

出席：9名

＜検討事項（フォーラム関連のみ）＞

- ・チラシのレイアウトを検討

◇企画募集審査会

日時：令和7年2月14日（金）午後1時半から4時半

■令和6年度第8回男女平等推進センター企画運営委員会

日時：令和7年3月3日（月）午後2時から4時

出席：9名

<検討事項（フォーラム関連のみ）>

- ・企画Bのタイトルとリード文について決定
- ・団体企画公募審査結果について報告（3件採択）

◇フォーラム各企画申込受付を開始（市報5月15日号掲載）

■令和7年度第1回男女平等推進センター企画運営委員会

日時：令和7年5月19日（月）午後2時から3時半

出席：9名

<確認事項（フォーラム関連のみ）>

- ・主催イベント（講演会、講座）における役割分担を決定
- ・パネル配置について確認

◇令和7年6月9日（月）～6月29日（日）

武蔵野市男女共同参画フォーラム2025実施

■令和7年度第2回男女平等推進センター企画運営委員会

日時：令和7年7月14日（月）午後2時から4時

出席：9名

<検討事項（フォーラム関連のみ）>

- ・フォーラム2025振り返り

<武蔵野市男女共同参画フォーラム2025>

企画募集!

武蔵野市男女共同参画フォーラムは、“誰もが自分らしい生き方のできるまち”を目指し、さまざまな講座・講演会やパネル展示などを開催する市主催のイベントです。令和7年度の実施にあたり、広く皆様から講座・イベントの企画を募集します。採用された企画は、企画団体に実施を委託します。多くの皆様のご応募・ご参加をお待ちしています。

<募集要項(一部)>詳細は裏面と募集要項の完全版も参照し、市ホームページから様式をダウンロードの上、お申込ください。当センターでも申請用紙を配布しております。

◆応募資格(以下のすべてに該当することが条件となります。)

- ①主に市内で活動しており、男女共同参画の視点をもって本事業の趣旨に賛同し、事業を企画・実施する団体。
- ②特定の政党やこれに類する政治団体・グループ及び宗教活動や営利活動を主な目的とする団体・グループではないこと。
- ③フォーラム事業実施に関わる連絡会議、報告会等に代表者または会員が出席できること。

◆募集事業

男女共同参画の視点を生かした講演会、イベント、講座・ワークショップ、音楽会など当フォーラムの趣旨に沿ったさまざまな事業。

<テーマ例>ワークライフバランスの実現/男性の家事・育児・介護参加/女性の再就職/多様性を認める社会/性別役割意識の解消など

◆事業実施日 令和7年6月15日(日)～6月30日(月)(予定)のうちいずれか

◆委託料

一団体につき10万円まで(企画実施当日の保育費用含む)
※事業実施後の後払いになります。

◆応募方法

指定の様式(男女平等推進センター窓口より入手、あるいは市ホームページからダウンロード)に記入し、男女平等推進センターまで郵送/メール、または窓口直接持参。

<募集期間>

令和6年11月15日(金)～令和6年12月27日(金)

(※郵送の場合 12/27必着)

受付/問い合わせ

武蔵野市立男女平等推進センター

♥ ヒューマンあい

受付: 9:00～22:00 (木曜 休館)

〒180-0022 東京都武蔵野市境2-3-7 市民会館1階

◇TEL 0422-37-3410

◇Eメール danjo@city.musashino.lg.jp

武蔵野市 男女

検索

センターHPへ>



<募集要項>（一部を掲載。詳細は、市ホームページからダウンロードするか、男女平等推進センターにて入手し、内容を確認のうえ、提出してください。）

◆事業実施会場

武蔵野プレイス、商工会館会議室、男女平等推進センター会議室等。
※希望会場の空き状況により調整させて頂く場合があります。

◆実施方法

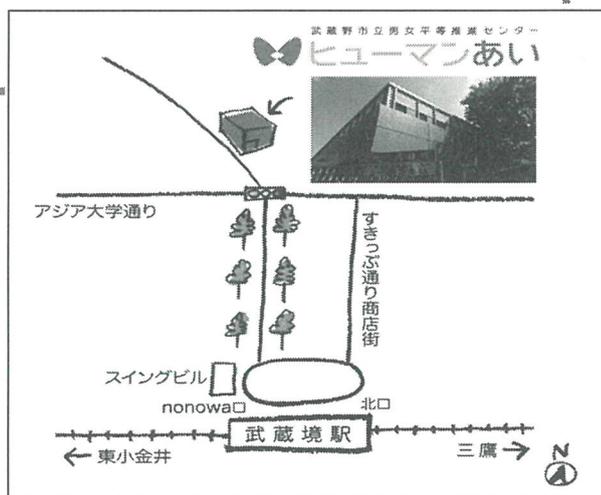
オンライン実施も可（但し、オンライン契約料、使用料は団体負担）

◆その他市からの支援

- ①施設・付属設備の使用料免除（市内公共施設に限る）
- ②市報 5月15日号への掲載及び男女平等推進センターのホームページでの事業周知
- ③フォーラム全体チラシ・ポスターへの掲載、市内公共施設への配布
- ④団体独自のチラシ配布支援（場所：男女平等推進センター・市政センター・コミュニティセンター・図書館・市役所）
- ⑤参加申込みの受付
- ⑥保育申込みの受付及び保育者の手配

◆応募から決定までの流れ

- ・ 審査会：令和7年2月14日（金）武蔵野市立男女平等推進センター会議室（予定）
プレゼンテーション形式で事業内容を紹介します。
（10分～15分程度）時間等は、応募者にご連絡します。
 - ・ 結果通知：2月下旬頃、書面にて通知
- ※決定については提出書類と審査会プレゼンテーションにおける説明に基づき、企画の公益性や男女共同参画の視点、実施体制等を考慮し総合的に判断します。
応募書類は返却いたしませんのであらかじめご了承ください。



武蔵野市立男女平等推進センター企画運営委員会

役職	名前
委員長	加藤 志歩 (むさしの男女平等推進市民協議会)
副委員長	田中 邦忠 (公募市民)
委員	市川 順子 (作ろう!みんなのジモト Wa-shoi パートナーシップ)
委員	大久保 力 (むさしの男女平等推進市民協議会)
委員	栗原 毅 (むさしの男女平等推進市民協議会)
委員	内藤 博子 (パシイワ武蔵野グループ)
委員	二子石 薫 (むさしの男女平等推進市民協議会)
委員	椿井 綾子 (男女平等推進センター職員)
委員	吉田 晴代 (男女平等推進センター職員)

(五十音順、敬称略)

「男女共同参画フォーラム 2025」参加団体

- ✦ むさしの男女平等推進市民協議会 (団体企画、パネル展示、企画運営委員会)
- ✦ 作ろう!みんなのジモト Wa-shoi パートナーシップ (団体企画、企画運営委員会)
- ✦ なないろのおと (パネル展示)
- ✦ パシイワ武蔵野グループ (パネル展示、企画運営委員会)
- ✦ フェアトレードむさしの (パネル展示)
- ✦ むさしのジェンダー問題を考える会 (パネル展示、企画運営委員会)
- ✦ lag (パネル展示)

武蔵野市男女共同参画フォーラム 2025 報告書

発行日 令和8年1月
発行者 武蔵野市
連絡先 市民部 市民活動推進課 男女平等推進センター
武蔵野市境 2-3-7
電話番号 0422-37-3410